

出席者 久保、白木、瀬戸崎、福井、平山、奥村、

第二十二次一般報告

- 一、代議員割當の件
- 二、大會議員委員選任の件
- 三、本部提出議案の件
- 四、大會議費用の件

日本労働同盟九州聯合會役員構成

- 會長 伊藤卯四郎
- 副會長 久保時造
- 主 事 帆足勇
- 會計監査 南 伊佐男、岡田岩太郎
- 執行委員 徳田吉松、岡田英二、廣渡源三、村松勝、宇土政夫、白木清三、山本鶴市、越智克巳、宮崎太郎、加木初太郎
- 常任書記 潮下新七郎、清末道男、奥村光夫

專 業 報 告

一、組 織

九州聯合會の組織運動は労働組合の社会的信頼の確保、増大に依つて労働階級の信任を窺め労働組合自からの業績を通じて労働階級を獲得する方針を以て進められてゐることは昨年度の大會議報告に於て指摘し、昨年度の表面的組織員数の不振の底で飛躍的發展を劃する組織の基礎工作を進めつゝある努力は必然に華々しき實績となつて酬ひられることを強く豫言しておいた。

この豫言は單なる大言壯語ではなかつたが、本年度の組織運動の實踐の上から見て、この豫言は僅かにその實現の緒を開いたに過ぎぬのは甚だ遺憾に堪えない。然し、社會情勢は依然として國際危機の暗雲低迷の中に益々反動を深刻化してゐる。國家主義對立激化の流行的思想の中に國粹主義の美名に於て、労働階級を裏切り資本家階級の攻勢に屈服せる労働組合運動に何等の信心も確信もなき徒輩が横行し、インフレと爲替安に依る軍需事業と輸出産業の好況に資本家階級の悪辣陰險極まる擷取の下で、夜業、残業相次ぐ強制的長時間の労働強化と臨時工人工夫名義制度に因る酷使の極めて僅少なる増収と更らに資本家階級の一方的利益のためにのみ逆用される非常時局の宣傳に眩惑されて労働階級は自からの團結運動組織運動に對して甚だ冷淡にして去勢されてしまつてゐる。かかる最悪の條件の下に行はれる組織運動の困難は自明の理である。

九州聯合會はかかる最悪の困難な情勢の中で昨年來の方針を踏襲し、健全なる労働組合主義の徹底とそれの社會的信頼の確保に全力を傾け加緊組合の内部充實強化のために別表加盟團體表の如く一大整理を斷行し、聯合會直屬の分會制班制を確立した。更らに製網労働組合泉南出張所主任元阪順次君を迎え直方出張所を設置し、九州聯合會の組織運動の最前線に動員した。健全なる労働組合支持と九州聯合會加盟の要求は一般情勢報告の中に述べられてゐるが如く、北九州の工場地帯、筑豊の鑛山地区の労働大衆の間に澎湃と起つてゐるが、表面的組織化を實現してゐないのは九州地方の頹迷なる資本家階級の壓迫を完全に克服し得る抵抗力を把握するまで敢て進行せしめる方針に依るものである。本年末は